

(米国) 見かけほどは減速していない 1~3 月期 GDP

27日発表の23年1~3月期GDP(速報値)は、前期比年率1.1%と22年10~12月期の同2.6%から大きく減速した。内訳を見ると、個人消費支出は同3.7%成長(寄与度は+2.48ポイント)と消費の堅調さがうかがえる内容となった。住宅投資は同▲4.2%(寄与度は▲0.17ポイント)と8四半期連続のマイナス成長となったものの、3四半期続いた2桁マイナス成長からは持ち直しつつある。輸出は同4.8%、輸入は同2.9%成長となったことで、純輸出の寄与度は+0.11ポイントと小幅にとどまった。

一方で、民間在庫変動の寄与度は▲2.26ポイントと、経済成長率を大きく押し下げた。こうしたことから、GDPから純輸出と在庫変動を除いた国内最終需要の成長率は同2.9%と7四半期ぶりの高い伸びとなった。以上から、23年1~3月期GDPは、見かけよりは減速していないといえるだろう。

ちなみに前年比でみると、23年1~3月期GDPは1.6%成長(22年10~12月期は同0.9%)と加速した。3月FOMCでの見通しによるとFOMC参加者は、23年10~12月期に同0.4%(中央値)まで成長率が減速する予想しており、金融引き締めと低成長は継続する見込みとなりそうだ。

